

# 令和4年度 第1回先進事例見学会の概要 成田市場・豊海流通センター

【開催日：令和4年7月14日(木) / 参加人数：24名】

令和4年1月20日に成田市公設地方卸売市場（成田市場）が成田空港隣接地へ移転し、再整備されて開場しました。敷地面積は東京ドーム2個分（約9.3畝）の広さがあり、従来の開放型から衛生管理及び温度管理が徹底された閉鎖型へと進化した成田市場は、煩雑な輸出手続きを市場内で完結できる日本初の「ワンストップ輸出拠点」でもあります。

また、令和4年3月1日に竣工したばかりの豊海流通センターも、先進のeコマースと物流効率化の取組を進め、6,177㎡（延床面積11,880㎡）の敷地に運送業者や食品eコマース会社、水産卸売業者等5社が集い、同施設をフル回転して共同利用することでコスト削減を図っています。

そこで今般、成田市場の開設者である成田市様と、豊海流通センターの管理者である株式会社水産流通様のご厚意により、会員向けに両施設を特別に見学させていただきました。その概要について以下にご報告します。

## ◆ 成田市場の特徴

成田市場は成田空港に隣接しているだけでなく、現在整備が進められている圏央道や、東関東自動車道のインターチェンジからも近いことから、国内外問わず物流に最適な立地にあります。また最大の特徴として、海外への輸出に必要な手続きを市場内で完結できるため、より簡単に、より新鮮な農水産物の輸出が可能となっています。



水産棟は施設全体に低温管理機能が施され、適切な温度管理ができるようになっており、気温の変化などによる影響を受けなくなるため、商品を鮮度の高い状態で保つことができ、より安全・安心な食材を提供できます。

高機能物流棟は、加工エリア、輸出加工エリア、冷蔵冷凍庫エリア、ワンストップ輸出エリアに分かれ、ここで水産・青果棟から調達した農水産物をすぐに加工し、海外へ輸出するために必要な各種証明書の受け取り・植物検疫・爆発物検査・通関といった手続きを行えます。輸出手続きなどを一貫して行うことで、朝にとれた農水産物を最短でその日のうちに、海外の店舗に並べることも可能になりました。

## ◆ 成田市場の施設概要

### ● 青果棟

衛生面に配慮した閉鎖型施設。荷の流れに配慮し一方通行を基本とした卸売場・仲卸売場のレイアウトを採用。

### ● 高機能物流棟

水産棟・青果棟からのスムーズな動線を確保し、調達した生鮮食品を速やかに加工やパッキングできる「加工エリア・輸出加工エリア」を整備。3温度帯（10～0℃・－20～－30℃・－60℃）の冷蔵冷凍庫を導入した「冷蔵冷凍庫エリア」は、災害等による長時間停電発生時でも3日間運転可能な非常用発電設備を装備。「ワンストップ輸出エリア」では、輸出に必要な手続きを市場内で完結できる日本初の仕組みを実現。今まで4～6日ほどかかっていた輸出手続きを最短で3日間程度に短縮。

### ● 水産棟

売場全体を衛生面に配慮した HACCP 対応を目指した閉鎖型施設とし、低温管理に対応。卸売場は仲卸売場や高機能物流棟への荷の動線に配慮したレイアウトを、仲卸売場は売場全体を見渡せるレイアウトを採用。国内のみならず、海外のマーケットを対象に「活きの良い魚」を売り込むことで新たな販路拡大を期待できる「活魚水槽エリア」を整備。

### ● 関連食品棟

精肉や乾物、調味料等を扱う店舗や飲食店が入場する市場機能を補完する施設（令和4年度完成予定）。

### ● 集客施設棟

地域の特産物や農水産物の販売、市場から仕入れた新鮮な食材を使用したレストランなどを通じて日本の食文化を世界に発信する拠点施設（完成時期未定）。



## ◆ 豊海流通センターの特徴

従来、水産物流通は「市場流通」と「市場外流通」に二分されて、両者は対峙する関係にありましたが、豊海流通センターは互いの長所を一体的に運用し得るインフラ構築を目指しています。

そのために、消費地流通に必要な機能の集積と最適立地化を行ない、ITによる一元管理

とネットワーク化、現場作業の先進化を通じて、鮮度と効率化（ローコストオペレーション）を追求するとともに、タイムリーな情報発信や商品開発・製造加工を通じて、良質な消費の拡大を追求しています。

豊海流通センターは、基幹事業を水産物の「消費地プロセスセンター」運営とし、同じ志の企業との協働によって、時代が求める多様なサービスをお客様に一括提供しています。

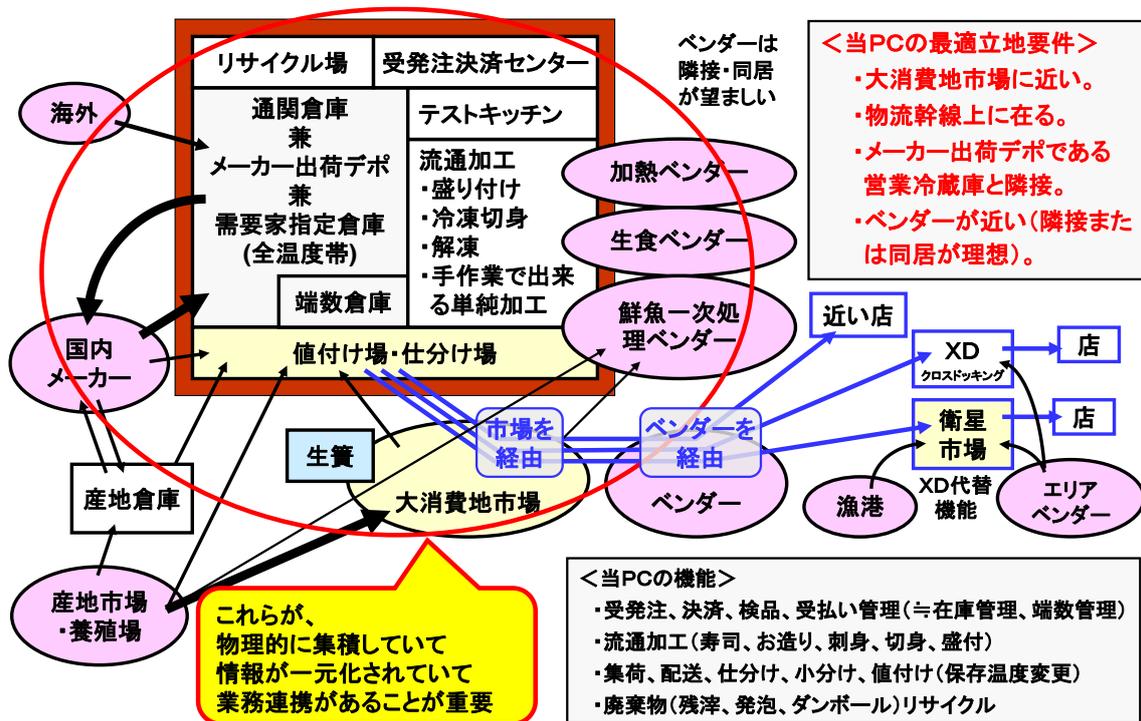


## ◆ 大消費地プロセスセンターに求められる機能と要件

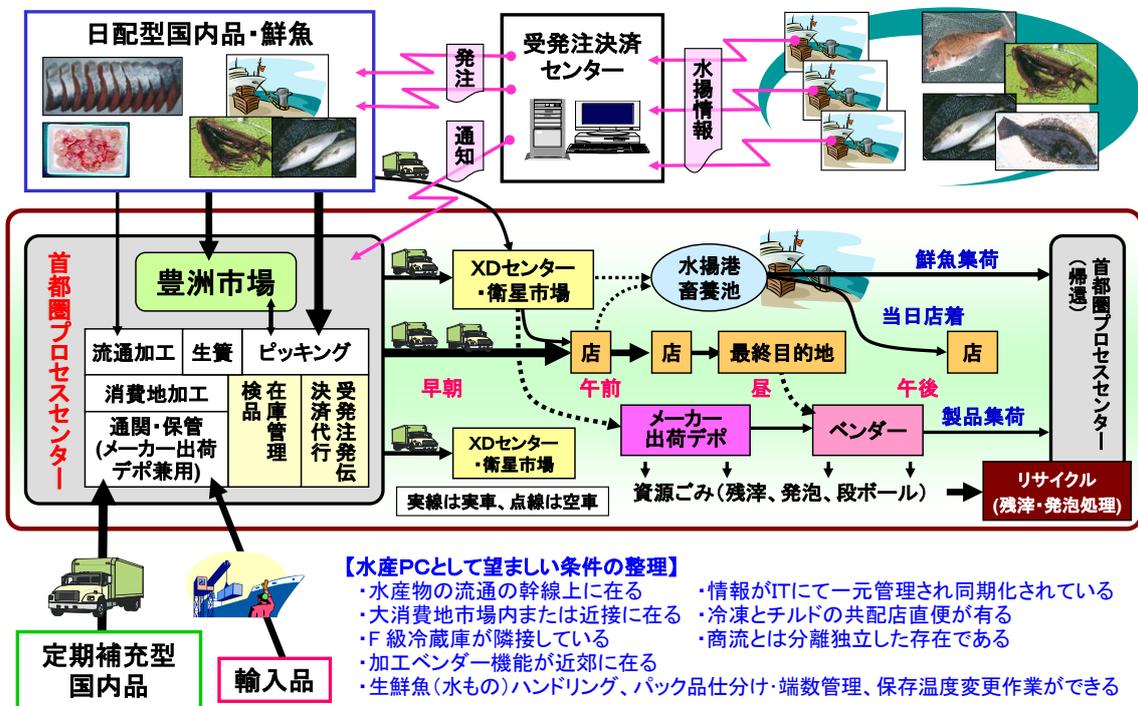
- ・ 水産物の流通の幹線上に在る → メーカー輸送費削減、在庫削減、時間制約緩和
  - ・ 消費地市場内または近接に在る → 日々商品調達柔軟性向上、移管費用削減
  - ・ F級冷蔵庫が隣接している → 品質向上、移管費用削減、在庫削減
  - ・ 加工ベンダー機能が近郊に在る → MD支援、コスト削減、時間制約緩和
  - ・ パック単位の仕分け、値付け、端数受払管理ができる → 小型店舗対応向上
  - ・ 生鮮魚（水もの）が扱える。冷凍と冷蔵の共配店直便が有る → 配送費削減
  - ・ 情報がITにて一元管理され同期化されている → コスト削減、業務品質向上
- \* プロセスセンターは商流と分離独立した存在であり、どの顧客に対しても一切の制約は設けず、サービス内容と料金に差別がない（このことは必須条件）

## ◆ 豊海流通センターの施設概要

竣工	2022年3月1日	敷地面積	6,177 m <sup>2</sup>	延床面積	11,880 m <sup>2</sup>
主要用途	4階：事務所（受発注・決済センター） 3階：水産加工場、生鮮食品全般の小口対応作業場（専門業者様に賃貸） 2階：一般（冷蔵、冷凍）水産品・パック品の店別仕分作業場、保存温度変更作業区、冷凍品一時保管庫 1階：主に近海鮮魚（＝水もの）の店別仕分場、鮮魚一時保管庫				
利用業者	(株)水産流通（水産物卸売業）／ 八面六臂(株)（総合食品通販業） (株)プレコエフユニット（水産物仲卸・販売業） 中央運送(株)（配送業）／ (株)東発（配送業）				



大消費地プロセスセンターに求められる機能と要件 (出典：㈱水産流通)



目標とする水産物の「首都圏流通最適化モデル」(出典：㈱水産流通)

## ◆ 見学会実施状況

### 【第1部：成田市場】

第1部は、成田市場の施設概要等について説明を受けながら、場内を順番にご案内いただきました。開場して間もないということもありますが、場内は整理が行き届き、とても清潔な印象を持ちました。また、物流における好立地に加え、ワンストップ輸出エリアの機能は、日本の農水産物輸出を増大させるための大きな武器になると感じました。さらに、これから建設される集客施設棟は、アフターコロナで回復が見込まれるインバウンド対策として大いに期待が持てそうです。最後に大会議室に移動して活発な質疑応答が行われ、第1部を終了しました。



施設概要等の説明



検疫スペース



水産棟仲卸売場



イヨスイ(株)の活魚水槽



建設中の関連食品棟



質疑応答の様様

### 【第2部：豊海流通センター】

第2部では、最初に豊海流通センターの機能やコンセプトをご説明いただいた後、水産流通の長本社長みずから、センター内をご案内いただきました。



概要説明の様様



中心となつてご対応いただいた水産流通の長本社長



ロケーションフリーのデジタルアソートシステム（DAS）を備えた使い勝手のよい荷捌きスペース



搬送容器の自動洗浄機も特色の一つ、外部業者からの依頼にも対応

豊海流通センターも今年の3月に稼働したばかりの施設ですが、コロナ禍の影響が少し収まったタイミングもあり、稼働状況は大変順調とのことでした。同センターは豊洲市場やF級冷蔵庫に隣接している好立地を活かして、将来的にはRFID（電子タグ）の利用も視野にITによる効率化（ローコストオペレーション）を追求するとともに、センターをともに利用する企業同士が協働することで、時代が求める多様なサービスを一括提供する水産物の「消費地プロセスセンター」を目指しています。

最後に行った質疑応答では、水産流通 事業推進オフィサーの佐々木様と八面六臂（はちめんろっぴ）の松田社長にもご登壇いただき、参加者からの質問に丁寧にご回答いただきました。

なお、末筆ながら、今回の先進事例見学会にご協力いただきました成田市様と㈱水産流通様に対して、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。

令和4年度 第2回先進事例見学会の概要

## 豊明花き株式会社

【開催日：令和4年10月3日(月) / 参加人数：27名】

愛知豊明花き地方卸売市場の豊明花き(株)は、卸売市場の運営から商品企画、資材種苗販売、輸出を手がける花や植物の専門商社で、観葉植物・花苗等の鉢もの類における取扱高で日本最大(130億円)の流通規模を誇っています。さらに、花き流通のECプラットフォーム「イロドリ\*ミドリ」(取扱高53.6億円)を運営し、定期ルート配送や宅配梱包、値札付け等の流通加工サービスを提供することで、全国の花き販売業者をサポートしています。

全国から集荷した商品は、インターネットを介して入荷情報を取引先へ公開し、商品1点ごとの詳細な画像表示による先進の機械セリシステムによってスピーディな取引を実現しています。また、2021年1月にオークションルームを全面的にリニューアルし、それに伴い応札機にタッチパネル式タブレットPCを導入しています。

加えて、植物コミュニティアプリ「GreenSnap(グリーンスナップ)」を運営するGreenSnap(株)と共同して、植物のビックデータプロジェクト「PlantsDATA(プランツデータ)」の運用を2022年8月から開始しています。PlantsDATAは、消費者動向からトレンドをいち早くキャッチして生産や流通に活かすことや、需給バランスを保ち、廃棄ロス等の業界全体の課題解決へ貢献すること、またデータをもとに新しいトレンドを発信するなど、市場活性化に活用していくことを目指しています。

今般、豊明花き様のご厚意により、リニューアルした機械セリシステムを見学させていただくとともに、「イロドリ\*ミドリ」や「PlantsDATA」といった新しい取組についても解説していただきましたので、その概要について以下にご報告します。



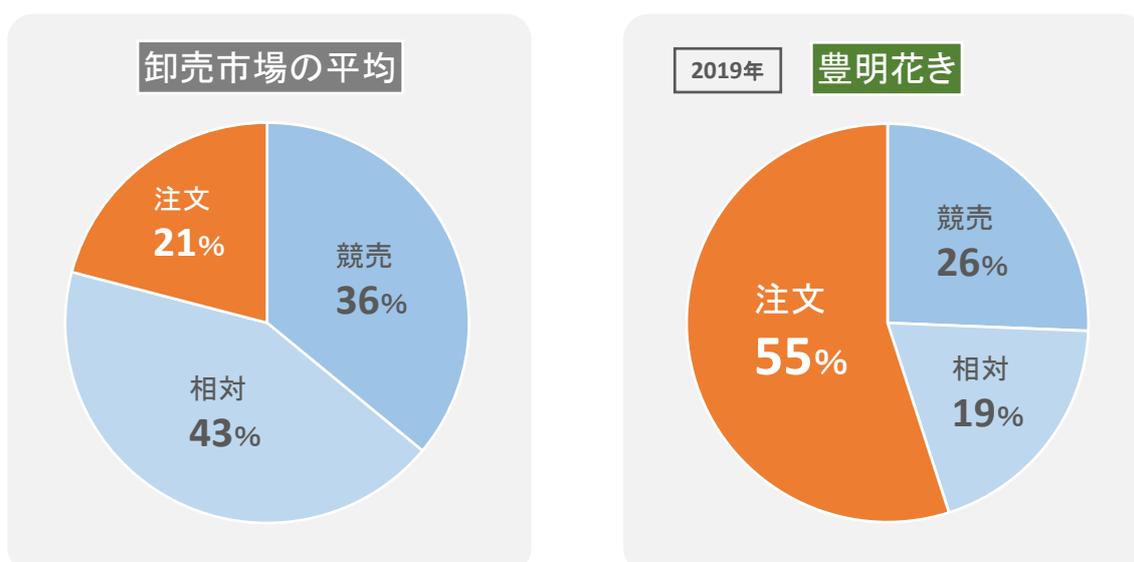
## ◆ 豊明花き株式会社の概要

1996年3月に愛知豊明花き地方卸売市場が開場するとともに、日本観葉植物(株)、日本洋蘭(株)、(株)福花園植物流通センターの卸会社3社が合併し、豊明花き株式会社が設立されました。また、2007年7月には(株)フラワーオークションジャパン (FAJ) と業務提携し、翌2008年8月にインターネット取引システム「イロドリ\*ミドリ」を開設しています。

取扱高の構成比(2021年実績)は、鉢物が87.9%(130億円)と大半を占め、切花が5.6%(8.3億円)、資材・種苗他が6.5%(9.6億円)となっており、鉢物の取扱高はFAJと合算すると国内シェアの25%以上(936億円)におよびます。

会社名	豊明花き株式会社
設立年月日	1996年3月1日(創業1959年1月31日)
資本金	1億円
本社所在地	愛知県豊明市阿野町三本木121番地
社員数	88名(2022年9月現在)
敷地面積	約52,000㎡
建物面積	約24,000㎡

豊明花きは、量販店や小売店のチェーン化など取引方法の多様化や需給バランスの変化に対応するため、買受人に「販売計画に基づいた仕入」、出荷者に「需要に基づいた計画的な生産」を促して、注文取引の強化に取り組むことで、花き事業者の経営安定化を図っています。

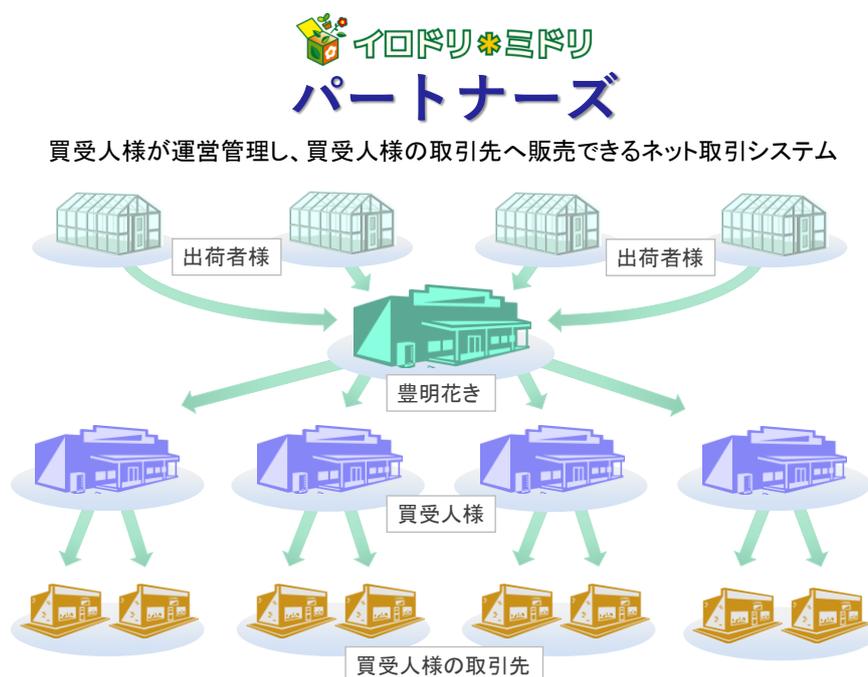


2019年 取引区分別の取扱高比率(鉢物)(出典:豊明花き(株))

## ◆ イロドリ\*ミドリ

イロドリ\*ミドリは、全国の花き販売業者と出荷者が取引を行う、BtoB向けECプラットフォーム（インターネット取引サービス）です。今般のコロナ禍では、従来は卸売市場内で開催していたトレードフェアをイロドリ\*ミドリ上でオンライン開催し、商談会のDX化も実現しています。その際、生産者の商品紹介動画の制作・配信を行い、これまでに200名以上の生産者が出演しています。

また、2010年10月からイロドリ\*ミドリを発展させたイロドリ\*ミドリ「パートナーズ」がスタートしており、パートナーズでは、買受人が自ら運営管理し、取引先へ販売できるネット取引システム



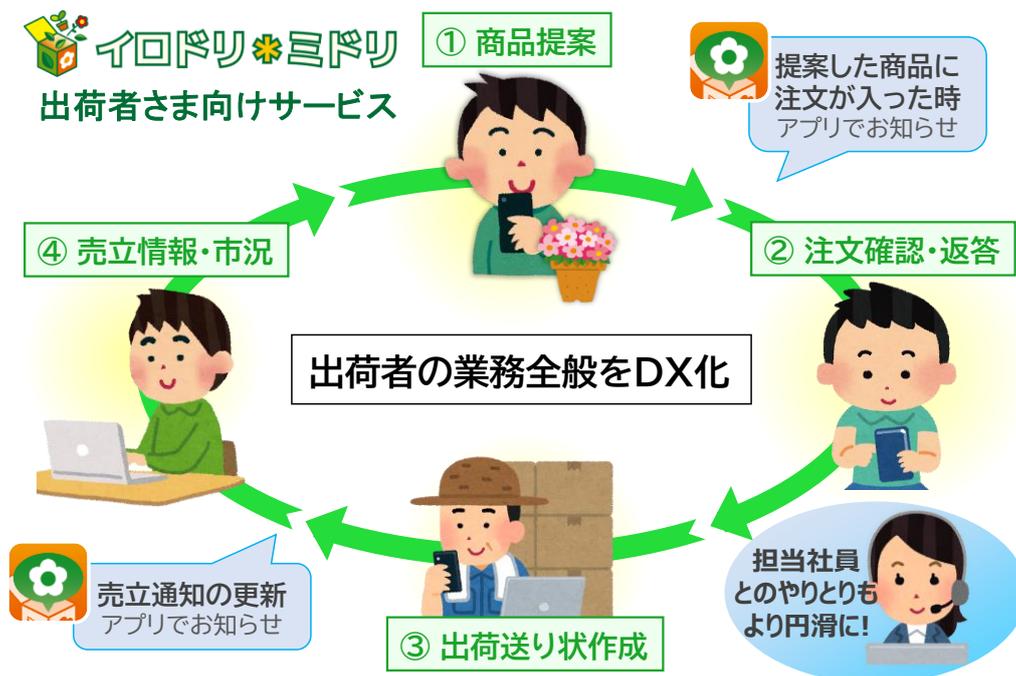
イロドリ\*ミドリ「パートナーズ」(出典：豊明花き株)



インターネット取引比率の推移 (出典：豊明花き株)

こうしてECプラットフォームを強化してきた結果、豊明花きのインターネット取引比率は年々増加し、2021年のネット取引金額は53.6億円(税込)に達しています。

さらに2016年9月からイロドリ\*ミドリ「出荷者さま向けサービス」を開始し、出荷者の業務全般のDX化も支援しています。



イロドリ\*ミドリ「出荷者さま向けサービス」(出典：豊明花き㈱)

## ◆ PlantsDATA (プランツデータ)

PlantsDATAはGreenSnapと豊明花きが共同で開始した植物ビックデータプロジェクトです。GreenSnapは月間利用者1,200万人、累計1,700万枚の投稿があるスマホアプリで、家の庭で育てている植物、外出先で見つけた気になる花などの写真を撮影して、気軽に共有したり植物アルバムを作ることができます。

PlantsDATAでは、植物の「トレンド」を様々なデータをもとに分析し、短期的なトレンドの把握と長期的なトレンドの分析を可能とするアルゴリズムを構築します。

今後はGreenSnapがもつ「消費者データ」と豊明花きがもつ「流通データ」だけでなく、経済指標など様々なデータを投入したうえ、AI化により精度を高め、生産・流通での活用に加え、植物の新しいトレンドの創出を目指しています。

## ◆ 見学会実施状況

当日は、豊明花きの福永社長にみずからご案内いただき、機械セリによるスピーディなオークションの様を見学させていただくとともに、市場内の物流機能や搬送資材のリサイクルの状況等について詳しく丁寧にご説明いただきました。

また、見学終了後は会議室に集まり、福永社長から豊明花きの先駆的な取組事例についてご講演いただき、講演内容等についての活発な質疑応答を経て閉会となりました。

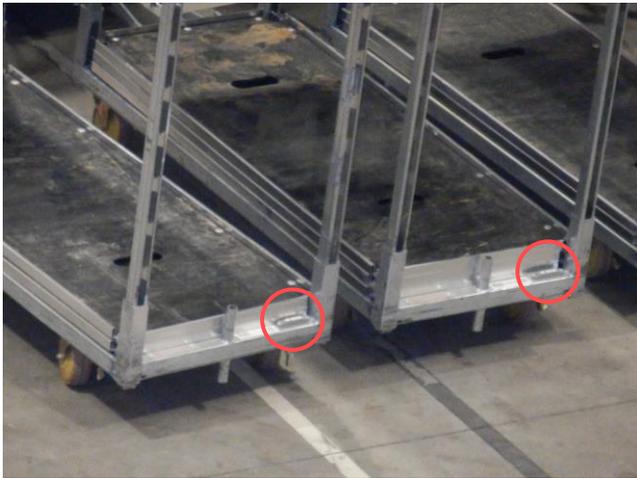
なお、末筆ながら、今回の先進事例見学会にご協力いただいた豊明花き㈱様に対して、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。



機械セリによるオークションの様様



市場機能等についての説明



台車に付いた RFID に情報を載せて物流管理



搬送資材は種類別に選り分けて再利用



福永社長のご講演と質疑応答の様様